

臨床研修修了にあたり

研修プログラムを修了して

Aコース臨床研修歯科医 小林 由奈

研修医としての1年が早くも終わろうとしており、本当にあっという間だったなと感じております。今年はAコースでの研修医の人数が少なく必然的にバタバタすることもありましたが、先生方や同期に恵まれ毎日楽しく研修医生活を送ることができました。新型コロナウイルスの関係もあり、研修初日から外来へ出ることができなかつたり、診療制限があつたりとイレギュラーなこともありましたが、先生方のご指導のもと研修医として学ぶべきことを学べたのではないかと感じております。

この1年間は非常に充実しておりましたが、担当医としての責任を感じながらもうまくいかないことばかりで、時間がかかってしまつたり、判断ができなかつたりと悩むことが多々ありました。予定外の診療となることもありましたが、そのたびに先生方に指導していただき、乗り切ることができました。自分自身はどう考えているのか、今日はどのような診療をすべきか、今後の治療計画はどうなのか、先生方はどれほど忙しい時でも私たちの考えをしっかりと聞いてくださり、自分自身で考え積極的に取り組む姿勢が身につきました。新潟大学Aコースでの研修は、1人の患者さんを診させていただく時間が十分にあり、1年間見続けることができる恵まれた環境にあります。多くのことを吸収できるはじめての1年をこの研修施設で過ごすことができ、歯科医師として良いスタートをきれたのではないかと感じております。指導医の先生をはじめ、いつでも親身に相談に乗ってくださり質問しやすい環境が整っているため、わからないことは放置せずに納得したうえで

診療に取り組むことができました。診療がない時間は先生方のアシストをさせていただき、治療方法や材料の選択はもちろん、患者さんへの説明の仕方を学ばせていただきました。実際に間近で見えておくことで自分の診療時に活かすことができ、先生方から貴重なアドバイスもいただけたため、アシストは有意義な時間となっていました。

Aコースでの研修は基本的にペアでの診療となっておりますが、お互いアドバイスしあつたり、診療準備を行つたりと、研修医として歯科治療を行ううえで私にとって欠かせない存在でした。毎日診療について相談しあい、以前の診療経験や先生方のアシストに入った時の経験を話し合うことでより良い治療計画となっていたのではないかと思います。珍しい症例もお互いの経験として学べましたし、1年間研修を行う上でペアがいてくれるということは心強く頼もしかったです。

最後になりますが、ご指導して下さった先生方、いつも支えて下さった同期の皆さん、衛生士さん、看護師の方々に感謝申し上げます。研修医として学んだ経験を忘れずに、今後も歯科医師として日々精進して参ります。1年間本当にありがとうございました。



藤井教授の誕生日にて
写真撮影時のみマスクを外しました

臨床研修修了にあたり

Bコース臨床研修歯科医 高田 翔

この度、執筆を賜りました研修歯科医の高田です。四月から大阪府の西尾歯科で、十月からは歯の診療科で臨床研修をしています。

研修生活は二週間の自宅待機から始まりました。無縁の土地で、人との関わりを断った生活は(楽しかったですが)、社会に出るはずの私の思想を内向的にしました。いざ出勤すると西尾歯科の皆さんは感染対策を行いながらも忙しく働いていました。臨床風景は大学のそれとはまた異なり、歯科医師とスタッフの密接な連携と効率的な動きは活気に溢れており、渦のようでした。出勤してから二週間くらいは頭真っ白で、何も覚えていません。同い年か年下のスタッフが立派に働いていて、差を感じた記憶が唯一残っています。先生方もスタッフの方々も優しく話しかけてくれましたが、関西弁の知らない人がたくさんいて困惑していました。それでもなんだかんだで、次第に私はその渦にのまれていきました。西尾歯科では、CR修復や根管治療、義歯の調整など実際にたくさんの処置をさせていただき、わからないことや困ったことがあると上級医の先生が快くフォローしてくださりました。また、院長はわざわざ時間をとって診療手技から患者対応まで様々なことを教えてくださりました。先生方は皆向上心に溢れていて、私とは知識量も経験値もまるで違うというのに、私と一緒に学ぶかのように接してくれました。そんな環境は新鮮で心地よかったです。私生活は「沼」を啜る毎日で、許されるならもっと関西弁を浴びたかったです。しかしながら、虫もカブトムシも観ることができて、クマゼミの声を浴びることは叶いました。そして西尾歯科を去る際は、この人間関係を失うのは惜しいと思うほど

に、私は溶けていました。

十月からは歯の診療科での研修が始まりました。戻ってきて、まず感じたのは“大学ってやっぱり凄い”ということです。学生時代、私は診療の方法など一つ一つの手技の意味を考えながら学んできたつもりです。しかし、初めて学ぶことばかりで、教わったことを絶対的に信じきってしまい、それが私の中での「常識」になっていました。しかし、大学から離れ、学んできたこととは違う方法や考え方を知ることによって、以前よりフラットな気持ちで「意味」を考えられるようになりました。すると大学で行っていることはとても理に適っていて、そしてそれは充実した医療機器や材料、時間、先生方の専門性の高い知識に支えられていると感じました。歯の診療科ではマイクロスコープを使用して、根管を視覚的に把握しながら行う根管治療を経験させていただき、生じた疑問は指導医の先生がすぐに解決してくれます。そんな感じで充実した研修生活を過ごしております。皆様の支えがあって、送ることのできる日々に感謝しつつ、精一杯自己研鑽していく所存です。残る期間も楽しく使い尽くして、臨床研修修了します。ありがとうございます。



西尾歯科にて記念撮影
写真撮影時のみマスクを外しました